2018・2019 年度　第４回　神奈川県産業教育審議会概要
令和元年 11 月 15 日（金）14：00～16：30　合人社日本大通７ビル　801 会議室

【出席者】◎角田　浩子、○杉山　久仁子、村木　薫、馬鳥　敦、渡邉　二治子、塚田　佳満、
目迫　公雄、師岡　健一、熊坂　和也

１　事務連絡（事務局）

◇資料確認
◇定数確認
◇会議の公開について

２　神奈川県教育委員会あいさつ（岡野教育参事監兼指導部長）

・「第22回神奈川県産業教育フェア」が11月９日（土）10日（日）に開催された。来年度の開催場所についてはクイーンズスクエアを予定している。
・デュアルシステムについて、先日の産業教育フェアに合わせ、産業教育フェア実行委員会も開催され、農業・工業・商業・水産の各教育振興会の代表の方がお集りになられた。そこで、各振興会の代表の方にデュアルシステムへの御協力をお願いし、今後、検討する場を設けさせていただく旨を御了解いただいた。教育委員会としても、本審議会における中間まとめの御報告をいただいたのち、今年度内を目途に今後の方向性について調整し、デュアルシステムの推進に向け、取り組んでまいりたいと考えている。
・11月16日（土）横浜駅西口で、東北の復興支援を目的に、東北の各商業高校と本県の商業高校が連携し、「高校生　東北商店街Ⅱ」というイベントが開催される。

３　神奈川県産業教育審議会会長あいさつ（角田会長）

・前回の審議会をはさんだ形で、台風15号、19号による猛威に襲われ、多くの方が被災されたとのニュースが見られたかと思う。県立高校においても、窓ガラスの破損や倒木などの被害に加え、自宅が被災して教科書等の学用品がなくなってしまった生徒もいると聞いている。教科書などは教育委員会で把握し、すでに代わりのものを送り、学業に影響ないように配慮していると聞いている。
・東日本大震災や熊本地震においては、神奈川県の農業高校、水産高校が連携し、被災地に生産実習品を届けるなど、専門を学ぶ高校生同士のつながりによる取組も行われたと記憶している。被災地の復興は容易なことではなく、まだまだ長い時間がかかると思われるが、日本がこれから復興に向けて力を合わせていこうとしている中、専門高校で学び、将来の産業を担う人材の育成について、このような場で考えていくことは、とても意味のあることだと改めて感じている。
・本日は、「中間まとめ」における最終審議となるが、皆様から忌憚のない意見をいただいて、実りある審議会にしたいと思っている。よろしくお願いしたい。

４　審議

（熊坂委員）

・私からは特に９月 24 日に開かれた専門部会で重点的に話題になり、意見交換された部分について報告する。
・デュアルシステムについて、特に企業と学校の取組みをコーディネートしていく組織がまだ十分ではないだろうという議論があった。コーディネートする組織がもっと充実していかないといけないという視点から工業教育振興会のような既存の組織がコーディネートしていく、このような母体となるような組織が必要ではないかという議論がされた。
・デュアルシステムは単なる体験学習、インターンシップとは違う。最大のポイントとして教育につ

いて学校と企業が認識を深めないとデュアルシステムの運営の定着につながらない。学校、企業ともデュアルシステムの取組についてメリットはある。これを今一度しっかり認識したうえで教育の場面として考えていく必要があるのではないかとの話があった。

- 企業と学校ともに当事者意識が希薄ではないか。これからは、地域、地域産業といったところへも目を向けながら、企業、学校、地域がそれぞれ当事者意識をもってこのデュアルシステムを推進していかなければ発展しないのではないか。もっとこのあたりを充実発展させていく必要があるのではないかとの議論がなされた。

（角田会長）

- 専門部会、分科会について事務局から報告をお願いする。

（高橋指導主事）

- 「地域等との協働における実践的な職業教育」の中間まとめ（案）について話し合われた。
- 学校側から、働き方改革の視点によりこれ以上職員の業務を増やすのではなく、この業務を補うシステムの構築が必要であるとの話が出た。この内容について中間報告に追記することとした。
- デュアルシステムの認知度について議論された。社会へのＰＲも踏まえて取組が必要との意見をもらった。

（倉前グループリーダー兼指導主事）

- 看護に関する学科のあり方について、審議会で指摘があった点において話が行われた。
- 最新データに更新しながら資料作成を行っている。
- 准看護師についての記載は現在の県内准看護師養成の状況もかんがみて、記載しなくても良いとの判断のもと、割愛している。
- 看護師の充足状況については数字で出せないとのことであり、看護協会に了解をいただき整理している。
- 充足しない状況についての課題についても話し合われた。
- 高校の看護教育と上級学校で行う学びが重なるのではないかという話の部分については、高校と上級学校は学ぶ内容が違う。同様ではないという意見があった。

（小池指導主事）

- 中間まとめでは、現状と課題についてまとまっているので現状のとおりでよいとの意見をいただいている。
- 旧データが一部あったので最新データに修正している。
- 介護福祉士養成校になるため、先を見通した研修・採用・整備が必要なのではないかという話があった。
- 本県として一定数が介護福祉士の養成をしていくという視点から、選択科目で生徒が選ぶというようなものよりも、しっかりと養成できる枠組みを作っていく必要が今後あるのではないかということで、最終報告に向けた今後の流れが話し合われた。

（角田会長）

- それでは中間まとめについて、事務局から説明をお願いしたい。

（倉前グループリーダー兼指導主事）

- 資料６、見え消しの資料を参考に説明する。
- ３枚目資料に下線が入っている箇所が新たに入った部分となる。
- 教員負担について、働き方改革の視点からもこれを補うシステムについて考える必要があるとの話が行われた。
- 産業界からの課題としては、デュアルシステムの認知度が低い。また、デュアルシステム、インターンシップ、コンソーシアムとの関わりについて整理されないとわかりにくいとの意見をもらっている。
- 今後の方向性については、教職員の負担増加に対する働き方改革の視点から、これを補うシステム

を構築していく事の必要性を新たに記載している。
- 准看護師についての記載は削除している。
- 県立高校看護科における課題について、上級学校との同様な学びはないとの意見から、記載を調整した。
- 県立高校看護科では看護師の受験資格が得られないとの事で、上級学校進学後においても１から看護の基礎を学ぶという課題があるのではないかとの記載を新たに加えている。
- 今後、学科のあり方について検討していく必要があるということで、最後まとめている。
- 福祉についてのデータについても最新のものとなっている。
- これからの福祉に関する学科のあり方について、現状、介護福祉士養成校が１校しかないこと等に関しての記載を新たに設けた。
- 施設設備等の更新などについても、これからの福祉に関する学科のあり方についてのところで新たに記載した。
- 看護に合わせ最後の文面をそろえて表記した。

（角田会長）
- 今回中間まとめの（案）の最終審議となっている。これまでの質問等も含め忌憚のない意見をいただきたい。そして、年末には本審議会として中間まとめを教育委員会に対して、報告する流れとなっているので、漏れがないかも含め発言をお願いしたい。
- 始めにデュアルシステムについて意見をいただきたい。

（熊坂委員）
- 見え消し資料３枚目資料裏にデュアルシステムの今後の方向性についての中で、「教育委員会、企業、市町村が連携を図りながら」とあるが、各自治体の協力は大きいと考えるので、市町村の部分を目立たせて記載した方が良いのではないか。

（目迫委員）
- 見え消し資料の中で「産業界」という部分が消されている。産業界との連携は不可欠なので消さずに残してはどうか。
- 学校現場の先生と話す機会があった。そこでデュアルシステムの苦労する点を聞くと、管理面だと聞いた。この管理する点で何か良い方法を考える必要があると感じた。

（角田会長）
- 最終報告に盛り込んでいけたらよいと思う内容である。マネジメント方法について検討は必要と考える。

（塚田委員）
- 教職員の負担を補うシステムについて考えていく必要がある。その視点から、生徒が主体となり実施し、それをサポートしていく環境を作っていくという考え方が良いと考えている。

（馬鳥委員）
- 各校の教職員のデュアルシステムについての考えを伺うと、一番苦労する点は受入れ先を探すことだと聞いた。各教育振興会がこういったコーディネート的な役割を担えば教職員の負担軽減へとつながると考える。持続可能な専門教育を進めていくうえで、是非ともお願いしたい。

（村木委員）
- 知名度を上げるには、商工会議所など企業がたくさん入っているところから発信してもらえれば知名度向上に加え、参加する企業など賛同するところがたくさん出てくると考える。

（杉山委員）
- デュアルシステムを実施する中でどこに課題があるのかがはっきりしていないのではないか。コーディネートすることのみが課題なのか。もっと根本的なところに課題がある気がしている。

（角田会長）
- デュアルシステムとは何を目指すのかという事を、学校・企業が共有し納得して進めていくための

提案も中間まとめに入れていけたらいいと思う。

（熊坂委員）

・ デュアルシステムの意義について明確になっていない。私のデュアルシステムの理解は、生徒を学校と企業が産業界を支える人材を教育、育成していくということだと考える。これを共有することで高校生の教育に協力的になり活性化していくと考える。

（塚田委員）

・ 現在、農業分野でデュアルシステムの受入れをしているところがある。実際の現場を見て生徒が経験をすることは本質的な部分も見えてくるのでその点でも意義はあると考える。

（角田会長）

・ 学校、受け入れる側の当事者意識を持ってもらえるような働きかけについても盛り込んでいけたらいいと思う。

（目迫委員）

・ インターンシップの受入れ企業はたくさんあるらしいが、生徒の希望と体験場所の乖離がみられる。マッチングしないと生徒の成長につながらないと考える。
・ 半面デュアルシステムは長期間の実習との事で参加を希望する企業が少ないと聞いている。
・ 現在看護、福祉が行っている教育はまさにデュアルシステムだと考えている。この様に教育課程に位置付けて行うことが必要だと思う。

（濱田高校教育課長）

・ 企業、産業界に専門高校での学びについてもっとＰＲしていかなければならないと考えている。
・ 学校の中で実習を行うのが主となるが、専門分野においての技能を身に付けるために学校の中だけで行うのではなく、一部を企業における長期間の実習で技術技能を身に付けるのがデュアルシステムである。教育課程に位置付けて授業時間内に実施していきたい。産業現場、企業、学校が共通理解の下、子どもたちを一緒に育てていくというところを基盤として実施していく事が必要と考えている。

（馬鳥委員）

・ インターンシップとデュアルシステムの差異は、資料にもあるが「デュアルシステムは実践的、実際的な職業知識や技術・技能を習得する。」とある。この部分がキーワードと考えると、この部分を本県の取組に記載すれば明確になるのではないか。

（熊坂委員）

・ 福祉では国家試験の受験資格を取得するという明確な目的があるためカリキュラムに組み込まれている。その中で 50 日間のまさにデュアルシステム的な実習を行っている。これを行わないと受験資格が取得できないので強制力を持っている。この様にある程度の強制力がないとデュアルシステムがうまく機能しないのではないかという印象を持った。

（角田会長）

・ 地域等との協働における実践的な職業教育のあり方についてはここまでとする。続いて、看護に関する学科のあり方について、御意見いただきたい。

（渡邉委員）

・ 項立てについてだが、資料６の７ページ、１にある看護に関する学科についてとあるが、内容は看護における現状が記されているので、「看護を取巻く現状について」とし、（１）で本県における看護職の就業状況としてはどうか。
・ （４）は中間まとめで重要な部分なので項目立てを２として記してはどうか。

（師岡委員）

・ 見え消し資料４枚目裏面（３）県立高校看護科における看護教育の現状と課題にある②の課題で新たに記されている部分について、「本県の看護科では卒業時に看護師の受験資格が得られないため、上級学校に進学し、看護の基礎から学びなおさなければならない。」とあるが、課題としてで

はなくこの部分をメリットとして捉えている。この部分について補足説明してもらえるとありがたい。

- （４）の最後から２番目の○が削除されているが、専門部会では特に問題視していなかった記憶があるので、この部分についても補足説明していただけるとありがたい。

（濱田高校教育課長）

- 看護科を卒業しても受験資格が得られない一方、津久井高校の様に養成校であれば卒業と同時に受験資格が得られ福祉への道ができる。この視点からこの一文とした。
- 「看護科における」とあるので、「普通科の高校では」というところに違和感があった。記載するとしたらこの項目ではないのではとのことで削除した。

（渡邉委員）

- 見え消し資料４枚目裏面（３）県立高校看護科における看護教育の現状と課題にある②の課題にある４つ目の点印に「経済的は理由と～」とあるが、進学する学校を選択するにあたっては様々な理由がある中で経済的理由だけをあげていることに違和感があるがいかがか。

（師岡委員）

- 様々な卒業後の進路がある。その中での一つの進路ということなので、経済的な部分に特化した課題ということではなく、一つの現状としてあるとのことで挙げたものと認識している。

（渡邉委員）

- 大学、専門学校は共に看護師国家試験受験資格が得られる教育機関である。そこで学ぶ学生に対する差別化を感じて違和感を覚えた。

（師岡委員）

- そのような意図はなく、その様に捉えられることは本意ではなく、我々も様々なルートがあることはよいことだと思っている。その様に捉えられることが考えられるので私も記載する必要はないと思う。

（角田会長）

- 続いて、福祉に関する学科のあり方について意見をお願いしたい。

（熊坂委員）

- 事務局からの説明にもあったが中間まとめとしてよいと考える。

（馬鳥委員）

- 見え消し資料の後ろから２枚目裏面②の課題、上から２個目の点印の「即戦力」を「高い専門性を持ち」と置き換えていただけないか。また、（４）上から２個目の○印に「即戦力となる」という部分を削除願いたい。それぞれ、スチューデントファーストの視点から専門高校において、高校生が豊かで深い学びを追求していくというような、視点に変えていくべきと考えている。

（角田会長）

- 福祉の現状と課題にある、2015（平成 27）年から約 20%（22 万４千人）減少しを、約 20%（22 万４千人）に減少と修正願いたい。
- 全体に関してご意見はあるか。

（渡邉委員）

- 課題の部分では福祉と看護で表現が異なる。表現をそろえた方が良いと思うがいかがか。

（濱田高校教育課長）

- 文言整理については事務局で再度確認検討し修正を行う。

（目迫委員）

- デュアルシステムの在り方について教育課程にどのように位置付けるかについては、各学校に委ねられているのか。

（濱田高校教育課長）

- 教育課程の編成については各校の責任者である校長なので、校長の判断で行われている。

（馬鳥委員）

・　デュアルシステムに参加する生徒の交通費が生徒によっての負担が異なる。この部分についても生徒の視点で検討を進めていいただければと思う。

（角田会長）

・　本日はデュアルシステムについて、どういったものなのか、そして今後どうしていきたいのかという本質的な議論ができたと思う。その際、具体的に進めていくためには、教育課程に位置付けられたものであるということや、それぞれの学校に合ったやり方だったり、一人ひとりの生徒に合ったマッチングの方法であったり、この先具体的なことをいろいろ考えなければならないと思う。デュアルシステムを推進していくにあたり、学校教員だけでなく、引き受ける産業界側も、若者を育てるという当事者として連携教育に当たっていく必要があるという方向性が確認できたと思う。また、看護科、福祉科については、現状の整理がなされたと思っている。今後、専門的な知識技能を身に付けて、これからの社会で活躍する専門高校の生徒達を、応援できるような中間まとめになったと思っている。本日は貴重な意見に感謝する。

５　事務連絡

◇今後のスケジュール